

各位

「社会・環境型センサーネットワーク協議会」設立趣意書

(理念と設立趣旨)

21 世紀において住みよい社会を構築し、サステナブルな成長を達成するためには、科学技術に基づくイノベーションが必須である。特に、科学技術の人間に及ぼす影響が大きくなり、システムが巨大・複雑化してきた今日では、まず人工物・自然・人間に立脚したイノベーションが重要であるが、中でも人間に立脚したイノベーションが重視されるべきであり、また、従来の業種や学領域を超え、個よりも共通の利益を指向した、オープン・イノベーションが求められている。

この認識を基本とし、ICT(Information and Communication Technology)技術をその具体的手段に選び、深く幅広い研究連携活動を起こし、先端的技術とマネジメント手法を創出しながら、社会的なイノベーションを生み出す場となる事を理念として、「社会・環境型センサーネットワーク協議会」を設立しようとするものである。

(運営の基本原則)

オープン イノベーションによる 21 世紀型住みよい社会の課題(環境、エネルギー、安全安心、健康・医療等など)解決への具体的挑戦手段として、センサーネットワークシステムを中核とした情報技術 (ICT) を取り上げ、その開発や導入・普及の促進、そのために必要な諸施策を本協議会の主要な事業とする。

運営に当たっては、速やかで効率的な成果の社会展開の為に、下記を原則とし、オープンでサービスを重視した斬新な協議会の運営に努めるものとする。

- 1) センサーネットワークのユーザーを含め関係者の広い参加をのり、成果の社会還元
の視点に立つ。
- 2) 参加者各々の立場・役割・能力を相互に尊重し、多様性を組み入れた運営。
- 3) オープン・イノベーションと新しいビジネスモデルを考慮した運営。
- 4) 共通・共有の知的財産の増強を目標とした運営。
- 5) 成果の公開原則を前提とした研究と情報公開。
- 6) オープンな ICT 活用による協議会活動へのサービス提供を目標課題の一つとした運
営。

(協議会の事業・規約)

協議会が進める事業および運営の規約は別紙(案)の通りとする。

平成 20 年 12 月 26 日

(設立発起人)

東京大学名誉教授 東京理科大学教授

横浜市立大学特任教授

横浜国立大学教授

慶應義塾大学准教授

CITRIS(The Center for IT Research in the Interest of Society)顧問 井上 隆秀

アルプス電気株式会社取締役

沖電気工業株式会社代表取締役社長

清水建設株式会社執行役員技術研究所長

日本電気株式会社代表取締役副社長

株式会社富士通研究所代表取締役社長

(社)科学技術と経済の会専務理事

板生 清

朽久保 修

河野 隆二

西 宏章

栗山 年弘

篠塚 勝正

矢代 嘉郎

広崎 膨太郎

村野 和雄

藤岡 宏衛

(備考)「社会・環境型センサーネットワーク協議会」: 英文名 Sensor Network for the Social Application (SeNSA) Consortium (以下「協議会」と略称。)